

就職差別・進路保障の闘い

公益社団法人 尼崎人権啓発協会
事務局 長 三澤 雅俊

1965(昭和40)年に国の「同対審答申」が出され、4年後には「同和对策事業特別措置法」が施行され、同和問題の解決に向けた取組が進められていきますが、この答申が出された翌年に、部落解放同盟は、「同対審答申完全実施国民大行進」を実施しました。その行進隊が福岡を出発して尼崎に入った時に、市立尼崎産業高等学校の女子生徒が部落差別によって不採用にされている事実が報告され、この事実が行進隊によって取り上げられ、その後行政責任が追及されていきました。

当時、企業の採用試験の応募書類では、「社用紙」というものがあり、本籍、親の職業、収入、量の数、宗教、思想、信条など、本人の能力に関係のない記入項目がありました。さらに、企業によっては、身元調査を行い、被差別部落の出身生徒だけでなく、貧困家庭、母子・父子家庭の生徒も切り捨てられるという状況がありました。

こうした就職差別に反対する運動が国を動かし、1968(昭和43)年に労働省は「同和地区新規学卒者に対する職業紹介要領」を各都道府県に通達し、「就職差別撤廃のための求人指導者の強化」等の指導がなされました。そして1970(昭和45)年には、近畿統一応募用紙が制定され、「社用紙」の廃止等の行政指導がはじまりました。また、兵庫県では、同年に兵庫県、兵庫県進路保障協議会、職業安定所、兵庫県高等学校職業指導研究会の連名で、「本人の適正や能力以外の資料を提出させないように」との申し入れを各事業所に通知しました。

しかし、企業や自治体の認識の低さから、就職差別事件はその後数多く発覚する中、生徒や親の思いを一番よく知る中学・高校の教師や部落解放同盟などが、就職差別反対の闘いを推進し、特に尼崎や兵庫県内で活発に闘われ、1973(昭和48)年には、学業成績や行動の記録などを生徒一人ひとりに寄り添った文章表現で記入する「兵庫県版統一用紙」を定めるなど、兵庫県独自の様式が定められました。こうした取組に尼同教でも進路保障部会として取り組んでいたことを知っておいて頂きたいと思います。(『尼崎部落解放史・本編』より抜粋)

人権・ひとこと

幸せに生きあうために・・・小学校での人権教育

人権という言葉は、難しくて固いイメージですが、私自身は「人と人が幸せに生きあうために必要な最小限の約束事」と捉えています。

最近の子どもたちの中には自尊心が育まれていない子が増えていると言われています。これは、家庭状況や社会的状況等を背景とした様々な要因が重なった結果だと考えられます。

そんな中での小学校での人権教育は、「人間関係づくり」に尽きます。子ども同士だけでなく、子どもと教師がつながり、また、その一つひとつがつながっていくことが重要です。それには「学級作り」が基盤となります。教師の「こんな学級にしたい」という思いと、子どもたちの「こんな学級になって欲しい」という願いの結びつきや、子どもたちにとって、話を聞いてもらえる心地よい心の居場所となる学級作りが大切になってきます。つまり、互いに知り合い、認め合う人間関係作り、教師と子ども・保護者との人間関係作りを図ることにあります。

そのための教師の構えとしては、子どもたちに思いを語らせるために、教師自身も自分を語ったり、教師自身が子どもへの好奇心や寄り添う気持ちを忘れないことが大切になります。尼崎市小学校人権・同和研究会ではそのような実践を啓発しています。

尼崎市小学校人権・同和教育研究会 会長 / 尼崎市立立花小学校 校長 橋本 悦明



編集後記



今号のキーワードは『子どもたち』でした。自分を大切にしてもらえた記憶を総ての子どもたちに！そして優しい想いが行き交う社会となるよう、「身近なところからできそうなことを考えてみたい」そう感じていただける紙面をお届けできればと思います。

編集委員 / 山本 育子・和田 季子・坂本 和也 (似顔絵イラスト / 和田 季子)

第104号

尼同教だより

発行：尼崎市人権・同和教育研究協議会

〒661-0024 尼崎市三反田町1-1-1 教育委員会事務局 社会教育課内

TEL: 06-4950-0405 / FAX: 06-4950-5658 / E-mail: ama-syakaikyoku@city.amagasaki.hyogo.jp

1月25日 第41回 人権・同和教育実践研究大会

- ・講演会 「涙を蒔いて喜びを刈る～あなたのいる場所が世界の中心～」 下橋邦彦さん
- ・分科会 4専門部の報告

就学前教育部

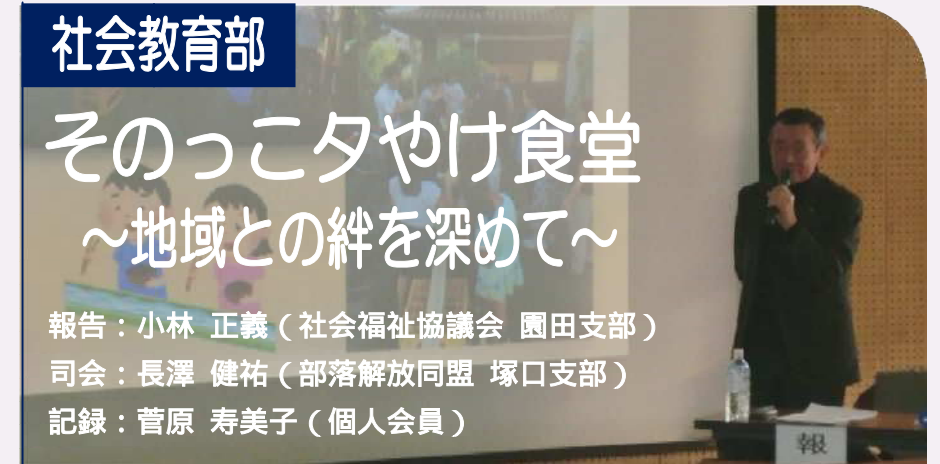
自分を大切に、互いに認め合い、共に生きる子どもの育成
～友達と一緒に、生き物の世話を
する体験を通して～

報告：幕内 慶子(立花東幼稚園)
司会：齊藤 真左子(立花幼稚園)
記録：前田 有香(竹谷幼稚園)

社会教育部

そのっこ夕やけ食堂
～地域との絆を深めて～

報告：小林 正義(社会福祉協議会 園田支部)
司会：長澤 健祐(部落解放同盟 塚口支部)
記録：菅原 寿美子(個人会員)



小学校教育部

自尊感情を高めるあたたかい仲間づくりの取組

報告：葛原 淳代(名和小学校)
司会：井上 佑子(尼崎北小学校)
記録：三宅 綺(立花西小学校)

中学校教育部

小園中学校の取組

報告：関 明義(小園中学校)
司会：戸井 鉄平(武庫東中学校)
記録：新 千鶴子(中央中学校)



食物アレルギーへの対応の徹底や、ボランティアの確保等の課題もありますが、子どもから高齢者までみんなの“居場所”であって欲しいとの思いをこめて運営しています。

講演会と分科会の詳しい内容は「尼同教この1年」に集録しています。

CONTENTS

- ・「そのっこ夕やけ食堂～地域との絆を深めて～」 実践研究大会分科会 社会教育部の報告
- ・「地域・家庭・学校をつなぐ」武庫南小学校区の取組
- ・「就職差別・進路保障の闘い」 尼崎市人権啓発協会 事務局 長 三澤 雅俊さん
- ・「人権・ひとこと」 尼崎市立立花小学校 校長 橋本 悦明さん

